



緑の相談広場:緑と花の市民講座

「里山に生える野草」

～里山を歩いて見つけよう～

令和8年5月16日

NPO法人角間里山みらい

代表理事・理事長 河崎 仁志

1.オウレン(黄連)多年草

◆見どころ:早春の白い星形の花、細かく可憐な葉。

◆自生環境:山地の林床(半日陰・湿気)

日本海側を中心に自生するのは、キクバオウレン(菊葉黄連)が多い。

◆名 称:根茎は太く、節状に珠が連なったような堅い部分があり、根の断面が黄色いことから「黄連」と名付けられた。非常に強い苦みがある。

◆用 途:根茎が漢方薬として利用される。

観賞用で楽しむときは、半日陰、風通しよい場所、腐葉土多め、やや湿り気を保つこと。自然風の植栽に溶け込ませるのがコツ。山野草らしい繊細さと庭では控えめな主役になります。





2.イカリソウ(錨草)多年草

- ◆見どころ:春に咲く、距(きょ)のある独特な花の形。花は、白・淡い紅など変化に富み、新芽の赤みを帯びた葉も美しい。
- ◆自生環境:山地の林床(半日陰・やや湿り気)日本各地の山地に広く分布し、落葉樹林の下で群生することが多い。
- ◆名称:花の形が船の「錨」に似ているためや薬草としての効能から「イカリ立つ」という言葉にかけたと言われている。
- ◆特徴:特異な形の花。木陰に自生する。茎が数本束になって生える。15cm~25cm。
- ◆用途:観賞用として古くから親しまれている。直射日光を避け半日陰で、腐葉土を多く含む水はけのよい土が適します。春の庭にやさしい趣を添えてくれます。

3.カタクリ(片栗)多年草

◆見どころ:早春にうつむくように咲く淡い紫色の花。強く反り返る花弁と斑紋が入る2枚の葉が印象的。

◆自然環境:山地の落葉樹林の林床(明るい半日蔭・春は湿り気あり)雪解け直後の短い期間に開花し、夏前には、地上部が枯れる(スプリング・エフェメラル)

◆名 称:地下茎の鱗茎から良質のでんぷん(片栗粉)が取れたことから「カタクリ」と呼ばれる。





4.シダ

◆見どころ:展開前のゼンマイ状の新芽と繊細で規則正しい葉の形。緑の濃淡が庭に深みを与える。

◆自生環境:山地の林床や溪流沿い(半日蔭・湿潤)日本は、シダ植物が非常に豊富で、環境に応じて多様な種類が見られる。

◆名称:シダは、花も種子もつくらず、胞子で増える植物群の総称で、花を咲かせないのが特徴。

◆用途:観賞用、景観づくりの下草。直射日光と乾燥を避け、常にやや湿り気のある環境を保つことが大切。石組みや苔と組み合わせると、自然味があふれる。



5. ショウジョウバカマ (猩猩袴)多年草

◆見どころ:春先に伸びる花茎の先に咲く、淡い紅紫色の星形の花。光沢のある細長い葉も美しい。葉は根本から多数出てロゼット状に平らに広がる。

◆自生環境:山地の林床や湿り気のある草地。(半日蔭~明るい日蔭)雪国で咲く丈夫な山野草で、群生すると見応えがある。

◆名称:古代中国のオラウータンの神格化した幼獣。赤い花を赤い顔に葉っぱが袴のようだから名付けられたとされる。

◆用途:観賞用として親しまれる。庭植えの場合は、明るい日蔭の場所。日焼けに注意。水はけと保水性を兼ねた土。

今日の ○ × クイズ

- ① オウレンの根茎は太く、節状に珠が連なったような堅い部分があり、根の断面が黄色いことから「黄連」と名付けられた。 ○ or ×
- ② イカリソウの名称は、花の形が船の「錨」に似ているため。 ○ or ×
- ③ カタクリは、雪解け直後に開花し、冬前には、地上部が枯れる。 ○ or ×
- ④ シダは、胞子で増える植物群の総称で、花を咲かすのが特徴。 ○ or ×
- ⑤ ショウジョウバカマは、山地の林床や湿り気のある草地育ち、雪国でも咲く丈夫な山野草である。 ○ or ×